

事業概要書

事業名	おがつの祭りを綴り繋ぐプロジェクト				
開始日	2022年3月1日	終了日	2022年3月31日	日数	31日
団体名	雄勝町伊達の黒船太鼓保存会				
(カウンターパート)	幟下会、おがつの芸祭鼓舞実行委員会、葉山神社				
担当者名	四倉由公彦、中村真菜美	スタッフ人数	16人		

事業費総額 (税込)	506,250円
CF事業枠	500,000円
その他資金	6,250円

事業目的	<p>流出してなくなってしまっていた町の風景やお祭りなどの風土を町民の手で再び集め、記録にとどめることで、そこに暮らしがあった証として歴史の伝承につなげる。</p>
事業全体の概要	<p>【雄勝町伊達の黒船太鼓保存会とは】 雄勝町に伝わる黒船太鼓を伝統芸能として学び、広める団体。 1991年(平成3年)5月、宮城県桃生郡雄勝町の町制施行50周年記念事業のひとつとして発足。観光客誘致の起爆剤としての役割を担い、地域の活性化と町民の誇れる文化活動の推進が目的。2005年に石巻市に合併後は任意団体として活動継続し、市内の祭事や伝統行事への出演を続けているほか、雄勝小学校・中学校で児童生徒に太鼓を教えている。</p> <p>【幟下会 (はたもとかい) とは】 雄勝の伝統文化である雄勝法印神楽と祭りを愛し、お神楽を学び広める活動を行う有志グループ</p> <p>【おがつの芸祭鼓舞実行委員会とは】 雄勝地区に伝わる伝統芸能などの組織が集まり、雄勝町でその文化や伝統芸能に触れる機会、震災後に町を離れた人も今も暮らす人も、皆が集まり、雄勝ならではの文化行事を作るために組織された委員会</p> <p>【複数組織が関わる理由】 今回の事業は震災後に雄勝を盛り立てていこうと複数のグループで複数の事業に関わっている。町の歴史や文化伝統の継承という共通目的から、太鼓隊でありお囃子や獅子振りに関わる黒船太鼓、神楽などの保存を目的に活動する幟下会、仮設商店街があった頃にイベントごとを行っていた鼓舞</p>

実行委員会などが主要なグループとなる。各グループのメンバーは雄勝町内住民、町外にでた住民などが所属し、浜で漁師をするものや商店を営むなど本業をもちながら本事業に関わっているものも多いが、複数の組織が関わることで町外へ自宅再建した方でも関わる余白を増やすし、それぞれのネットワークで仲間をあつめて事業に取り組む体制をつくる。

●取り組むべき課題

津波が最大で21mの高さまで遡上した雄勝町は、町全体の7割に当たる約1,100世帯が住宅の全壊、浸水した約152ヘクタールは全て災害危険区域に指定され、人口は震災前の約4分の1にまで減少するなど、壊滅的被害を受けた。

国指定重要無形文化財である雄勝法印神楽をはじめ、雄勝町（旧 十五浜村）の各浜には固有の祭囃子や獅子舞が伝承され、神事や季節のお祭りなど、神社を中心としたコミュニティが守り継がれている地地域だったが、津波による甚大な被害や人口流出などの影響により、震災前とは大きく異なる状況に置かれている。

復興事業で道の駅なども整備されたが、町に住む人が買い物するなどをするにも商店が少なく、町を出て暮らす人が戻ってきて過ごすような場所とはなっていない。また雄勝地区の伝統産業である硯についても道の駅と併設される形で伝統産業会館が整備されたが、こちらも暮らす人と離れた人の憩いの場としての機能は薄く、伝統産業の展示は行っているものの、この町にあった文化を継承する施設とはいえない。

震災前のふるさとに想いを馳せようにも公的施設や家屋の多くが流出したため、記録が残っておらず、展示などが行えない。個人でもっている写真資料等を収集し、町に暮らす（暮らした）みなさんの財産として、保存することが急務である。

●パートナー協働プログラム対象事業

①震災前のお祭りや暮らしの風景の写真などの収集

震災前の写真や動画などで個人のお宅に残っているものを、雄勝にゆかりのあるメンバーで一軒一軒訪問し、町の文化の保存のために貸し出しを依頼する。メンバー構成は黒船太鼓、幟下会、鼓舞実行委員会のほか、町内有志など50名ほどで告知、広報、訪問を行う。

それらをデジタル化し、永きにわたり町の財産としてのこせるよう、整理し保存する。また、事業終了後は雄勝町内の公民館や図書館、支所、集会所、神社へ収蔵し、閲覧が可能になるよう設置を依頼する。

神社は協力依頼が済んでいるほか、各集落の区長にも話を通しており収集に協力を依頼したほか、地区集会所への収蔵も事業として実施をする。

②保存した写真や映像の公開と、企画展「おがつのまつり」での展示

収集した写真や映像などを道の駅と併設された伝統産業会館の展示室で展示会「おがつの祭り」が開催されるが、その展示会場で収集した写真や映像データを展示・公開を行う。（神楽の展示は文化庁の地域文化財総合活用事業が活用されている。）を行う。展示期間は3月11日前後にお墓の掃除

や追悼で町にかえって来る方たちも見てもらえるように、2月27日～3月21日までとなっており、展示会は複数の雄勝町で活動する他団体と連携して開催される。

●期待される効果

- ・震災後に失われた風景に今も暮らす方、離れた方がともに心をよせることで、地域のよりどころとなる。
- ・流出した町の風景やお祭りなどの風土を町民の力で集め、記録にとどめることで、そこに暮らしがあった証として歴史の伝承につながる。
- ・地域における等身大の歴史的文化資料という価値だけではなく、津波で全て流され、手元に何も残らなかった方々ともそれらをシェアすることで、個人の枠を超えた地域共有の財産として、懐かしみ、楽しめるものになると考えています。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
<p>① 震災前のお祭りや暮らしの風景の写真などの収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集の趣旨説明のチラシの作成、配布 ・写真、ビデオの電子データ化、印刷 ・デジタル化した写真や映像の収蔵 (公共施設や神社、学校、地区集会所など) ・戸別訪問による、収集の依頼と貸し出し、返却 	<ul style="list-style-type: none"> ・雄勝町民1,000名 ・雄勝地区外へ再建した元町民3,000人
<p>② 保存した写真や映像の公開と、企画展「おがつの祭り」での展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した写真や映像などを持ちいて、企画展を開催 <p>会期 2/27～3/21</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民1000人 ・展示会来場者3,000人